

県道佐賀関循環線の陥没＝5月下旬、大分市佐賀関（県道路保全課提供）



県内の海沿いの国道や県道で、海水の浸食が原因とみられる道路の陥没が相次いでいることが21日、県への取材で分かった。4月末からの1カ月の間で、大分市、佐伯市、臼杵市の5カ所で陥没が確認されている。最大で長さ約5㍎、幅約1・5㍎、深さ約3㍎の空洞になっていた。県は「重大な事故は起きていないものの、早急に対応する必要がある。他に危険な箇所がないか調査を検討する」としている。

県道路保全課によると、いずれも、県のパトローラー陥没が見つかったのは佐伯市や近くを通り掛かった大分市で3カ所、大分市と臼杵市からの通報で確認された。市で各1カ所。いずれも海沿いの道路や歩道で、整備されてから30年以上、経過している。海水によって道路脇の石積みブロックが傷み、海水が染み込んだこと、片側交互通行にして、5月まで原因とみられる。県は5カ所を通行止めや

海沿い道路陥没相次ぐ

1カ月に大分、佐伯、臼杵市で計5件

整備から30年以上 浸食が原因か



確認した日	道路名
① 4/30	県道大入島北循環線
② 5/5	県道梶寄浦佐伯線
③ 5/15	国道217号
④ 5/18	県道臼杵津久見線
⑤ 5/22	県道佐賀関循環線

クを修復した。2012～14年度の3年間で見つかった陥没は3件。同課の後藤裕司参事は「1カ月に5件も見つかるのは異例」と話す。大分市内での発生を除くと県南のリアス式海岸沿いに集中しており、「波が多く集まる砂の流出につながっているのではないか」と話している。同課は09年から10年にかけて、専門機関による「路面下空洞調査」を実施。探査車で道路や歩道の地下の状態を確認した。小さな空洞が3カ所見つかり、補修した。調査には多額の費用が掛かり、頻繁に実施することはできないという。

短期間に複数の陥没が見つかったため早急な対応が必要だと判断。後藤参事は「予算が付き次第、早ければ8月から9月に海岸線の道路や歩道を中心に調査したい」と話した。

(2015年6月22日朝刊19面)

大分県内の海沿いの国道や県道で、海水の浸食が原因とみられる道路の陥没が相次いでいることが分かりました。

①専門機関による空洞調査を頻繁に実施できないのは、どうしてでしょう。

②リアス式海岸とは、どういう海岸でしょう。調べてみよう。

③陥没が起こる仕組みを読み取り、説明しよう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....